

# 米国の食肉業界のCOVID-19対策と効果



米国の食肉業界は、国全体や他の多くの業界と同様に、COVID-19のパンデミックの中で、前例のない困難な課題に直面してきました。しかし、米国の多くの地域で市中感染が拡大しているにもかかわらず、2020年春以降、包括的なCOVID-19プログラムと実施手順を通じて、食肉工場従業員の感染率は激減しています。

データによると、2021年1月の食肉・家きん肉従業員のCOVID-19感染率は、米国の国民全体より60%低く、2020年5月の同セクターの感染率の3分の2にとどまっています。

北米食肉協会のメンバーは、これらの効果的な対策を引き続き徹底し、今後、さらに最前線で働く食肉・家きん肉業界の従業員が可能な限り早くワクチン接種を受けられるよう尽力していきます。食肉生産企業の多くは、アメリカ人全体にワクチンが配布されることを支持しています。

## 15億ドル以上

COVID  
感染防止対策や  
従業員の支援に  
投じられた費用

## 2万5千人超

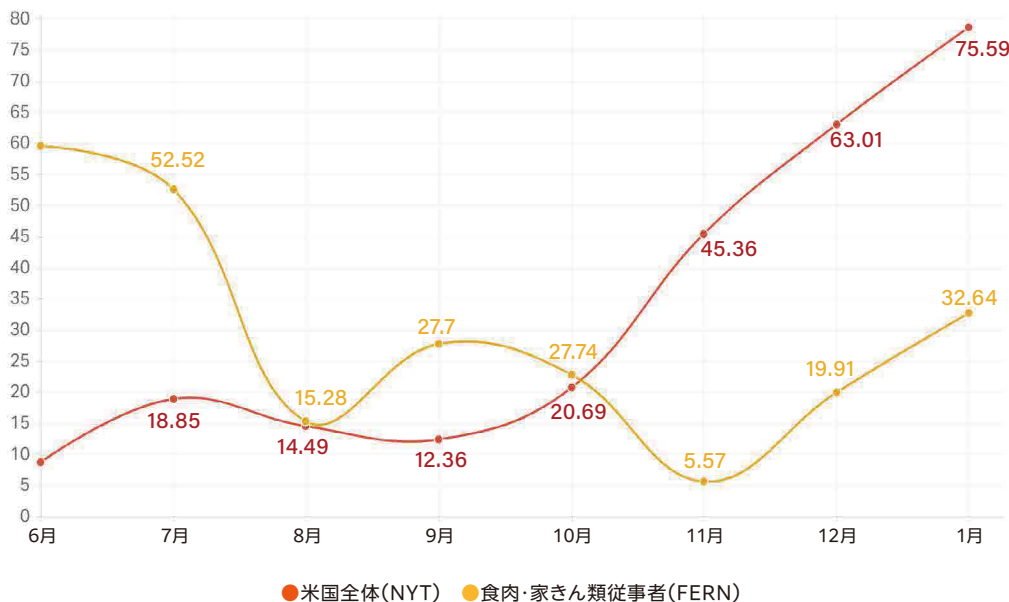
感染、隔離、  
工場の営業停止、  
ハイリスク群該当によって  
有給休暇を取得した  
従業員数

## 100%

勤務前・勤務中に  
症状やウイルスへの  
曝露について  
スクリーニングを受ける  
従業員の割合



10万人あたりの平均感染者数/日



### 主な感染防止策の例



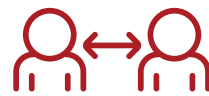
勤務前・勤務中の  
検温、健康状態の  
スクリーニング



フェイスマスク、  
フェイスシールド、  
PPEの着用



休憩所、食堂等の  
衛生管理の拡大



ソーシャル・  
ディスタンス、  
勤務場所への  
パーティション設置



必要に応じた検査  
(モニタリングツール  
としての検査含む)



医療サービスへの  
アクセス拡大、予防医療、  
ワクチン確保の推進



最先端の  
空気清浄・換気システム



職場、自宅、  
コミュニティ内での  
感染防止へ向けた  
啓蒙活動

# 米国の食肉業界のCOVID-19対策と効果

## 食肉生産企業のCOVID-19プログラムと実施手順は、保健機関のガイダンスを満たした、あるいは上回るものです。

COVID-19対策の具体例には次のようなものがあります：

**スクリーニング：**労働者は職場へ入る前に発熱や症状、ウイルスへの接触についてスクリーニングを受け、勤務中は検温を受けています。

**検査：**労働者は必要に応じて検査を受けることができ、また、無症状の労働者の中からランダムに行う検査がモニタリングツールとして使用されています。

**パーティション：**施設にはワークスペースを区切るパーティションが新たに設置され、また、休憩所やカフェテリア等にも設置されています。

**ディスタンス：**各施設では、屋外の休憩所やカフェテリア・スペースの追加、ソーシャル・ディスタンス用の目印の設置、一方通行の指定、シフト・休憩の時差導入、その他、物理的距離を保ち密集地点を最小限に減らすための対策が新たに行われています。

**空気清浄および換気：**各施設には、紫外線殺菌による空気清浄、プラズマ型空気洗浄技術、高性能なHEPAフィルター付システムといった、最先端の空気清浄機や換気システムが設置されています。

**個人防護具(PPE)：**各施設では、フェイスマスク、フェイスシールド、ならびにその他の個人防護具が支給されています。

**接触面の衛生管理：**各施設では、コロナウイルスへの滅菌効果が証明された洗剤や殺菌剤を使用して、より広範囲な衛生管理を行っています。

**医療サービスへのアクセスならびに給付金の拡大：**各企業は従業員やその家族向けに、オンサイトの医療サービスやデジタル診療へのアクセス、予防医療、給付金を拡大しています。

**疾患のある、またはハイリスク群に該当する従業員への休業補償：**各施設では、ハイリスク群に該当する従業員、また隔離ならびに疾病を有する従業員に対して、有給を与えています。

**啓蒙活動と資料配布：**北米食肉協会のメンバーは従業員に対して、職場、自宅、また日常生活で出かける場所でCOVID-19に感染しないための習慣について情報提供を行っています。資料は多様な労働者のニーズに合わせて14カ国語以上に翻訳され、印刷物やデジタル媒体で配布されています。

米国内で急速な感染拡大が続くパンデミックの軌道とは反対に、食肉・家きん肉業界の最前線の従業員は、15億ドルを投じた包括的抑制策の実施によって保護されています。食肉業界向けに改訂されたCOVID-19ガイダンスにおいて、これまで実施してきた対策は効果を上げています。食肉業界は、従業員の安全を長期的に守るための次の段階として、ワクチン接種の優先権が付与されることを要望しています。

COVID-19プログラムと実施手順が開始されたのは、公開データからもわかる通り、2020年の春です。効果的な対策は最前線の従業員を守ると同時に、米国内ならびに輸出先国への食肉供給を安定させ、米国の農業経済の維持・発展に寄与しています。

労働安全衛生庁(OSHA)が追加のガイダンスや緊急の一時的基準が必要であると判断した場合、OSHAは、そうした基準をすでに定めている各州の例に倣って、可能なエリアではソーシャル・ディスタンスの実施を認め、そうでないエリアでは他の感染対策の使用を認めるといった基準を定めます。

直近の焦点は、食肉・家きん肉業界に従事するエッセンシャルワーカーに対し、迅速かつ効果的にワクチン接種を行うことに向けられるべきです。北米食肉協会と全米食品商業労組は、全米50の州知事に向けた合同書簡などを通じて、一貫した主張を行っています。私たちのセクターにいる最前線の従業員へのワクチン接種は、バイデン政権の掲げる「政権発足100日で1億5千万回接種」の目標達成に大きく貢献します。

より詳しい情報については、[www.NAMICovidFacts.com](http://www.NAMICovidFacts.com)をご覧ください。